

当病院で活動されているドクターに、各専門分野での取り組みや、医療への想いを語っていただきます。

vol.17

外科 科長

望月 保志 もちつき やすし 先生

専門：外科 得意分野：腹腔鏡下手術



——先生は岐阜県のご出身とうかがいました。これまでのご経歴をお話いただけますか？

出身といえは小学校から高校まで12年くらい岐阜市に住んでいましたので出身は岐阜になるかと思いますが、生まれは愛知県名古屋市、その後静岡県清水市に数年いました。高校を卒業してからは東京の大学へ進学して4年間住んでいました。大学ではコンピュータ関係の学問を学んでいましたが、自分に才能がないことに気づき（笑）再受験し、東北大学医学部へ進学することとなり、仙台へ来ました。



仙台市内で初期研修と後期研修を終え、東北大学総合外科へ入局し、今に至ります。十和田に来るまで仙台は合計16年くらい住んだのでむしろ仙台が故郷かもしれませんね。

——十和田市に住んでみて、どんな印象をお持ちですか？

十和田市は以前旅行で来たことがあって、十和田湖や奥入瀬溪流の風光明媚な印象が強かったこともあって実際住んでみても、気候の良さや四季のはっきりしたところがとても気に入っています。空気が綺麗で食べ物が美味しく住みやすい印象ですね。特に冬は想像よりずっと厳しくて静かで美しく大好きです。

**—お医者さんになるきっかけは何でしょうか？**

いちばんのきっかけは元 NHK 記者でノンフィクション作家の柳田國男さんの終末期医療に関するエッセイだったと思います。当時受験のために通っていた塾に置いてあったもので、なんとなく手に取って読んでみたものだったのですが、医療と医療者が終末期を迎えた人々とさまざまな死生観を背景にどう関わっていけるかをテーマにした作品で、それまで無機質なコンピュータプログラムを相手にしていたこともあって、人と人の有機的で感情的な繋がりにとても感動したことを覚えています。ちなみに人生を変えた出会いでしたが、もう作品名も忘れてしまいました（笑）。

**—外科を目指されたきっかけは何でしょうか？**

終末期医療に興味があったこともあり、癌と闘う医師になりたいと考えました。その中でも特に外科は、癌を切除しつつできるだけ機能を維持することをといた技術的な面だけでなく、患者さんが家族・地域と一緒に、苦痛ができるだけないように癌とともに生きていく事をお手伝いするという精神的・社会的な側面も併せ持っています。この点で外科に憧れを持ちました。

**—外科医をされていて、やりがいを感じることを教えてください**

さきほどのきっかけでもありましたが手術が手術前のイメージトレーニングの想定通りに終わったときや、がんで苦しんでいた患者さんが治療やさまざまなサポートを受ける事で苦痛が取れ、食事が取れるようになって退院できた時などは大きな喜びを感じます。

**—最近、研究されていることや勉強されていることは何でしょうか。**

外科だけに限らないと思いますが医療の進歩は本当に目まぐるしく、最新の知見をアップデートする事も大変です。手術や抗がん剤治療などに関する新しい知見は論文を日々通してチェックするよう心がけています。

**—休日にリフレッシュできる趣味や、凝っていること、特技などありますか。**

休日は車で旅行したり家でゲームをしたりしています。青森は綺麗なところがおおいので夏は外に出て自転車でツーリングに出かけたり、キャンプで焚き火を眺めながらビールを飲んだりするのが好きです。冬は雪深い鄙びた温泉を探すのが楽しいです。あと今年はスノーボードを極めようと思っています。

——食事の仕事のパワーの源と思いますが、好きな食べ物、嫌いなものもあれば教えてください。

嫌いではないのですが「すきやき」みたいな甘辛いものは苦手です。好きなものは味付けだと酸っぱくて辛いもので、種類だと野菜と果物と海産物です。

——最後に市民の皆さんへメッセージをお願いいたします。

十和田のみなさんが元気で楽しく居られるように、一緒にお手伝いできればと思っています。これからもどうぞよろしくをお願いします。



---

所属学会：日本外科学会、日本消化器病学会、日本内視鏡外科学会、日本臨床外科学会、日本消化器外科学会  
資格情報等：日本外科学会 外科専門医、緩和ケア研修会修了